

NEWS RELEASE

<<http://www.takara-bio.co.jp>>

平成20年9月10日

T B 0 8 - 2 5 5

研究用試薬大手メーカーである米国プロメガ社に LA-PCR 法のライセンスを供与

タカラバイオ株式会社(社長:加藤郁之進)と、米国プロメガ社(Promega Corporation、ウィスコンシン州)は、当社が保有するLA-PCR技術に関する特許の全世界における非独占的実施権をプロメガ社に供与するライセンス契約を、2008年9月10日付で締結しました。プロメガ社は、当社がLA-PCRの実施権を供与した世界で第22番目の企業です。なおこの特許は米国で2013年2月まで、日本と欧州諸国では2014年2月まで有効です。

本契約の締結によりプロメガ社は全世界においてLA-PCR法を利用する製品を製造・販売することができます。また、本契約に伴い、当社はプロメガ社より契約一時金及びライセンス対象製品の売上げに応じたランニングロイヤリティを受け取ります。

LA-PCR法は、遺伝子工学の基幹技術であるPCR法の能力を飛躍的に向上させた画期的な技術で、「長く正確なポリメラーゼ連鎖反応(Long and Accurate Polymerase Chain Reaction)」を意味します。従来のPCR法では1万塩基をこえるDNAの増幅は困難でしたが、LA-PCR法により数万塩基の長鎖DNAを安定して正確に増幅することができるようになりました。LA-PCR技術がPCR法の欠点を補完し、ゲノム解析や長鎖フラグメントのクローニングおよび変異導入等のPCR法の応用分野をさらに拡大しました。

LA-PCR 法は遺伝子工学分野の基盤技術の一つとして世界中に広く認知されており、さらに需要は高まっていくものと期待しています。当社は、今後も LA-PCR 法のライセンス活動を積極的に行っていく予定です。

なお、本件について、当期の当社連結及び単体の業績に与える影響は軽微であります。

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

この資料は、9月10日に京都経済記者クラブに配布しています。

この件に関するお問い合わせ先 タカラバイオ株式会社 バイオインダストリー部 Tel 077-543-7235

<参考資料>

【プロメガ社の概要】

会社名 : Promega Corporation
設立 : 1978 年
代表者 : William A. Linton, Chairman and CEO
従業員数 : 920
住所 : 2800 Woods Hollow Road, Madison, Wisconsin 53711-5399,
U.S.A.
事業概要 : ライフサイエンス研究用試薬・機器の製造販売
ホームページ: www.promega.com

【語句説明】

PCR

Polymerase Chain Reaction (ポリメラーゼ連鎖反応) の略称です。温度サイクル装置 (サーマルサイクラー) を使用し、微量の DNA を数時間のうちに数百万倍にまで増幅する技術です。

LA-PCR

LA-PCRとは、遺伝子工学の基幹技術である PCR 法の能力を飛躍的に向上させた画期的な新技術で、「長く正確なポリメラーゼ連鎖反応 (Long and Accurate Polymerase Chain Reaction)」の意味です。

PCR 法は、遺伝子工学分野だけでなく、生化学、生物学、医学など、生物を対象とした研究、検査の基幹技術となっていますが、長い DNA フラグメントの増幅が困難であったため、ゲノム解析等に PCR を応用する際の障害となっていました。

LA-PCR 法の発明者であるバーンズ博士は、その主な原因を、DNA を合成する際に間違っただ塩基を取り込んでしまうと伸長反応はそこで停止してしまい増幅の効率が下がると捉え、これらの欠点を克服した、より長い DNA をより正確に増幅させる LA-PCR 法を構築しました。LA-PCR においては、間違っただ塩基が取り除かれ、引き続き反応がスムーズに進みます。これによって、特に染色体 DNA のような複雑で大きな DNA をターゲットにした PCR において、従来の PCR 法では不可能であった長鎖 DNA フラグメントの増幅が可能となりました。